

# 町医者だより

平成24年10月号

## 小児喘息に対する吸入ステロイド治療

〈発行・お問合せ先〉

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤソビル本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

小児の喘息治療の第一選択薬は吸入ステロイドです。特に小児では喘息の中心的な病態である慢性的気道の炎症を抑制し肺の構造的変化の出現を防ぎ、順当な肺の発達、発育が得られるようにすることが大切です。吸入ステロイドの安全性に関しては、特に身長への抑制作用を懸念が以前から報告されてきましたが、その多くの報告が成人した時の身長は使用していない兄弟やコントロール群と変わらず問題ないとの結論でした。今年の9月6日付のニューイングランド医学雑誌 (NEJM) に小児の喘息治療で吸入ステロイドを使用すると成人した時の身長が約1 cm低いとする論文が発表されました。今月は、改めの小児における吸入ステロイドの安全性、特に身長に対する安全性をここ2年間に発表された論文を中心に検討いたします。

### 今年の9月6日のニューイングランド医学雑誌の論文

アメリカからの発表です。1993年から1995年に行われた吸入ステロイド治療の治験のフォローアップ研究です。当初1041名の5歳から13歳の子供さんを3群に分けます。その内訳は吸入ステロイド (パルミコート400マイクログラム) 使用群、ネドクロミル (日本では発売されていない、インターン類似の吸入剤) 吸入群とコントロール群です。これらの治療を4.5年行い終了後8年間、身長と体重や喘息症状などをフォローしています。その結果パルミコート吸入使用開始後すぐの1年で-1 cmの身長差がコントロール群との間に認められ、吸入吸入終了後8年にも1.2 cm身長が低いままでの報告です。

### 2000年のニューイングランド医学雑誌の論文

上記の論文だけを見ると、とても心配になってくるのですが、実は同じ雑誌の2000年10月12日号に全く影響なかったとする論文が出ています。こちらは、デンマークからの発表で、使用した吸入ステロイドは上記と同じパルミコートで容量も1日412マイクログラムとほぼ同じ、3歳から13歳のお子さんで平均9.2年の吸入治療を行っています。比較対象群はこの臨床研究のコントロール群に吸入ステロイド使用したお子さんの未治療の兄弟を加えています (兄弟が入っている方が患者さんの遺伝的背景がより考慮されると思います)。この論文では身長に差がなかった、との結論です。

### 最近2年間のその他の論文

ここ2年間のその他の論文では、「身長差なし」がMed Sci Monit誌 (2012年)、Ann Allergy Asthma Immunol誌 (2012年)、J Asthma誌 (2012年)、Pediatr Int誌 (2012年) の4論文で、「身長への影響がある」とするのは、Lancet誌 (2011年)、J Pediatr Endocrinol Metab誌 (2011年)、Pediatr Res誌 (2010年) の3論文でした。影響ありとする論文はいずれも1 cm身長が低くなるとしています。

### 結局のところ結論は出ていません

改めて最近の論文をチェックしましたが、小児における吸入ステロイドの影響がどうなのか結論が出ていません。この身長への抑制作用は、比較的早期から見られることから、当院では身長をことあるごとに測定しています。これまで吸入ステロイドを使用している小児の患者さんで身長への抑制作用が抑制された方はいませんが、これまで通り必要最低限の吸入量を使用する方針には変わりはありません。